

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601894
法人名	有限会社 ハーティ
事業所名	グループホーム らくらく
所在地	福岡県久留米市宮ノ陣町若松2348番地5
自己評価作成日	令和3年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和3年3月4日	評価結果確定日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「感謝と思いやりの精神を大切に地域の一員としての役割を果たしていきます」の理念を職員が理解して日々の介護に従事しています。四季の変化を感じて頂けるように、天気の良い日は散歩、ひなたぼっこをして頂いています。また家庭菜園、家事、掃除などスタッフと一緒にしながら毎日が充実した生活をおくれるような施設を目指しています。毎日入浴出来、清潔に過ごす事ができます。主治医と24時間連携可能な体制で看取り介護を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所理念に込められた思いを管理者を始め職員の全員が理解し、利用者とは日々接する中で支援に活かせるよう努めている。利用者一人ひとりの能力が発揮できるように、職員と一緒に掃除や料理の手伝いなどを積極的に取り入れて、毎日が充実した生活となるよう支援している。感染症対策として事業所外への外出が難しい中で、事業所内に居ても利用者が季節感を感じ取れるよう工夫したり、訪問制限を実施していた際にはテレビ電話や録画、写真などで家族、友人と交流を図るなど、様々な取り組みをして利用者や家族の心情にも配慮している。協力医療機関とは24時間連携できる体制が整っているため、希望があれば看取り介護にも対応することができる。利用者や家族が最期のときまで安心して過ごすことができるよう、管理者と職員が一丸となって支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝と思いやりの精神を大切に、地域の一員としての役割を果たしていきます。」を念頭に入居者様だけではなく地域で出来る事や困りごとの解決に取り組んでいる。	利用者だけでなく、地域に愛される事業所になりたいとの思いが事業所理念には込められている。利用者や地域住民との関わりの中で職員が学ぶことも多く、その情報を職員間で共有し、全ての職員が同じ方向を向きながら支援ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の小中学生や住民へ認知症サポーター養成講座の開催や出前講座の受け入れ、文化祭や地域の行事等参加させて頂いている。	地域住民との積極的な交流を図るため、子ども110番の家に登録し、地域の困りごとなど気軽に声をかけ合える関係を築いている。職員がキャラバンメイトとして活動する中で地域と利用者が交流する機会も増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトでの活動や民生委員の訪問時の対応の仕方などの相談があった時の提案等させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催時、ヒヤリハット報告時の意見を伺い提案して頂いたり事細かに話し合い、意見を頂き実践している。	行政職員や地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、利用者家族等が参加している。感染症対策として、書面での開催としているため、細やかな報告を心掛けるなどして、参加者に内容が伝わりやすいよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告時に助言をいただいたり、分からないことは尋ねるようにしている。	行政担当者には事業所パンフレットを窓口へ持参した際に居室の空き状況、事業所内での困りごと、事業所の近況報告をして、アドバイスをもらっている。顔を合わせて対応を重ねることで、気軽に相談できるような関係性を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと宣言しており、また施設内の研修で繰り返し学んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、身体拘束をしないケアを徹底している。	身体拘束をしない宣言をしており、全ての職員が正しく理解できるよう事業所内で研修会を開催している。実際の支援でも身体拘束をしないことを徹底するよう、職員間で言葉遣いなど気になる点に注意し合い、判断に迷う部分でも声をかけ合うなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学んでおり、日頃より虐待防止に努めている。特に言葉の環境を大事にして言葉遣いに注意しながら思いやりのある対応ができるようスタッフ間での声かけを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んで制度の理解に努め、パンフレットあり必要な時のために準備している。	実際に成年後見制度を活用している利用者があるため、実際の事例も踏まえながら、事業所内研修で職員の理解を深めている。事業所内にパンフレットを常備するなどして、相談があった際にはすぐに対応できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時には十分な時間を設けご本人様やご家族様が納得されるようわかりやすく説明している。改定時にも説明、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常会話から聞き取ったり、ご家族には家族の会、面会時等様々な場面で伺っている。玄関には意見箱を設けており、外部の連絡先も掲示している。	日頃から利用者、家族との信頼関係の構築に努めて、小さな希望も言い出せるような関係性を築いている。実際に感染症対策として事業所への訪問制限実施時は、利用者と家族が直接会う機会が少ないとの声から、ライン電話を活用して顔を見ながら話しができるようにするなど、不安軽減にも力を入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日頃より気軽に意見を言える関係性をとって必要に応じて対応している。	全ての職員が意見、要望を表に出しやすい環境となるよう、細かな部分まで配慮している。管理者は職員と個別に話しをする際には、先ず職員の話したい内容を聞き取ることが重視して、その内容を踏まえて話し合うよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の努力や実績等代表者に報告している。一人一人の得意なことを把握しやりがいとなるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の男女を雇用している。基本的には全員正職員で採用し安定した雇用形態をとっている。また、資格取得や趣味のための希望休を極力応じる等配慮している。	20歳～70歳台の幅広い年齢層の職員が勤務している。年齢やこれまでの経験、体力などを考慮しながら、職員それぞれの長所を活かし、お互いに伸ばし合いながら勤務できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対する研修会があれば参加している。また、代表者は日頃から職員に対して言葉の持つ影響力や重要性について指導し人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	全ての職員が利用者の人権を尊重した対応を実践できるように、事業所内研修で人権に関するテーマを繰り返し取り上げている。利用者の自己選択、決定を尊重するように日々の支援でも心掛けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて施設内研修を行っている。外部研修についても経験、特に必要と思われる職員を優先して参加させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者の交流や連携の必要性を認識しており久留米市介護福祉サービス事業者協議会等でネットワークづくりや活動をして連携を図れる機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず代表者と管理者が事前訪問を行い本人の生活状況やニーズ等入居前の情報を共有出来るように努めている。それをもとに介護計画を作成し日々に活かせるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には必ず見学をしていただき、また事前に訪問しご家族からお話を伺う機会を作り不安解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に相談者からお話を伺う段階で現状で一番必要な支援を受ける事が出来るように対応している。まだ在宅での支援で解決出来るならば提案をする。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の有する能力を把握しており、出来ない動作だけをお手伝いし職員がお手伝いをしていただく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の支援には積極的に家族の協力もお願いしており、家族からの申し出に対しても当苑も協力しながら共に支えあう関係を作っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人はビデオ通話で顔を合わせたり、手紙のやり取りなどをおこなっている。行きつけなどはご家族に協力をいただいて途切れないよう支援している。	事業所利用前の生活をできるだけ多く把握できるよう努め、家族の協力を得ながら、利用者と馴染みの人や思い入れの深い場所との関係継続に努めている。コロナ禍の中でもビデオ通話を活用して、関係が途切れないよう工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格などを把握し、一緒に過ごせる環境を提供し利用者様同士が支えられるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様が再度戻られたり、退去されたご家族は大雨の時に心配して下さったり関係が途切れていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりから伺ったり、家族に尋ねたり困難な場合はどう思われるかチームで検討している。	食事や入浴の介助、会話中の何気ない言葉、動き、表情などから利用者の希望や意向を把握できるように気を配りながら支援している。把握が困難な場合でも、家族と話しをしながら、利用者本位の支援を行えるよう取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人からの聞き取りやご家族の協力も得て生活歴やなじみの暮らし方の把握に努め、日々の介護に活かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、状態変化があったときや定期的にあセスメントを行い、また日頃の関わりからも把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者も介護と兼務していて日々の生活状況やニーズの把握に努めて介護計画作成時にはご家族の参加もお願いしている。必要時には医療機関にも助言をお願いしている。	全職員で介護計画について話し合う場を月に1回設けて、利用者と接する機会のある全ての職員の意見を汲み取れるようにしている。家族とはテレビ電話を活用して、内容を把握されているかを確認しながら説明を行うよう心掛けている。	利用者が望むサービスを提供できているか振り返るため、介護計画内の短期目標となる項目、期間に合わせたモニタリングを行い、利用者の今の思いの把握に繋げ、より利用者本位となる介護計画作成の体制構築に期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、連絡ノート、医療ノートに随時必要な情報は記載している。記録活用と共に職員間での情報を交換しながら介護計画の作成、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう取り組んでいる。たとえば在宅復帰に向けて取り組んだり特別な外出支援等支援している。また地域の高齢者の相談窓口になれるよう出向している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りのボランティアをお願いしたり図書館やお祭りに出かけていたが、コロナのため行っていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族が決定しているが相談があれば看取りを見据えての紹介させていただくこともある。かかりつけ医と密に連携をとらせていただいている。	利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医としているが、以前からのかかりつけ医を継続して受診している利用者もいる。家族が受診時に同行できないときには密な報告を心掛け、専門科受診時にも訪問診療、訪問看護を行っている協力医療機関と情報共有して連携を図っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は24時間体制でいつでも相談や指示を仰ぐことができる。週に1回は訪問され状態を把握と職員への指導も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と密に連携をとらせていただいております。早期退院が前提のもと主治医、SWと連携ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期について話し合い、状態変化時の都度ご家族と方針を共有し主治医、訪問看護、ご家族の協力のもとに終末期の支援に取り組んでいる。	初めに終末期についての方針を説明し話し合い、状態が変化した時にかかりつけ医を交えながら家族と話し合うようにしている。これまでの経験を看取り介護を希望する利用者の支援に繋げている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法、AEDの研修を受けておりAEDは設置してあり、マニュアルも掲示している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、運営推進会議でも協力をおねがいし、マニュアルも掲示している。また実際の経験後には再検討をおこなったりしている。	夜間に火災が発生したことを想定した訓練を今年度10月に実施し、災害時の避難誘導や点呼、安否確認などの一連の流れを再確認している。風水害の経験から、備蓄品は2階に移動させ、近隣の協力を得て、備蓄品の保管場所を追加で確保するなど、地域との協力体制も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもあり、言葉の影響力や重要性に関して日頃から職員間でもきをつけて対応している。	利用者自身に着替える服やおやつを選んでもらうなど、利用者の自己決定を尊重した支援をしている。職員は利用者の訴えを傾聴し、利用者と同じ目線になって支援できるよう取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと職員と利用者様が話せる時間を持つよう心がけている。環境を整え自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様と過ごし方を一緒に考え決定することを心がけ休息等希望に添えるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の服装もその人らしい服と一緒に選んでいただき支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められているが食べたいものを聞いたり旬のものを取り入れるようにしている。皮むき等の下準備を手伝って頂いている。	利用者の食べたいもの、旬の野菜などを献立に取り入れ、目で見て楽しめるように彩にも気を配っている。台所で利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえなどの食事の準備をしたり、お弁当やおせちを協力しながら作るなど、家庭的な雰囲気である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を提供している。食事摂取量や水分量を記録して健康面の把握にも努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を実施。パターンを把握し失敗を減らす支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、リハビリパンツの使用を減らせるようパターンに合わせた声かけや誘導を行っている。トイレ内のカーテンの位置を工夫して、利用者のプライバシーにも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食物繊維、適度な運動、など予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴していただける。同性介助を好まれない方は異性が介助を行うようにしている。	利用者それぞれの好む温度に調節したり、冬至のゆず湯など季節を感じる工夫を取り入れたりして、入浴が楽しみなものになるよう支援している。浴槽への入浴を拒否する場合には、足湯を提案するなどして、気分転換を図っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用し、状況に合わせて休息をとっていただいたりしている。日中の活動量にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はいこいの薬局が行っており、指導や分からないことは尋ねられる。医療ノートを活用し、症状の変化にはケース記録に記載している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、嗜好品もそれぞれに利用し、表情や様子を見ながら気分転換を居て頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にご協力をお願いしながら希望の場所に外出できるよう支援しているが今はコロナで中止している。地域の祭りでは地域の方が配慮して下さる。	コロナ禍のため、外出が難しい状況ではあるが、天気が良いときに玄関先のベンチで日光浴をしたり、事業所周辺を散歩したりして、外気に触れる機会を作っている。外出したいと希望が出たときには、家族とも相談しながら代替え方法を検討して対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は金庫で行っているが、買い物での支払いが出来る方はご自分で支払いをお願いしているが今はコロナで中止している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、テレビ電話、年賀状等柔軟に対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節の飾りものを貼り利用者様が不快に思われない様に清潔を保ち、温度や光等配慮している。	利用者と職員が一緒になって、共有空間を掃除したり、その月にあった飾り絵を作ったりして、利用者にも生活感を感じてもらえるよう取り組んでいる。室温や室内の明るさの変化、大きな音などの五感の刺激については特に配慮し、利用者が過ごしやすい空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブルの椅子、畳の部屋に円卓を配置しておりご自身の好きなように過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、利用者様が使い慣れたタンスや仏壇を持ち込んで頂き、自分の部屋だと分かるような見印を持ち込んで頂いている。	利用者が使い馴染んだ家具、家族や友人との写真、思い出のある絵画、習字等を飾り、家族と相談しながら、その人らしい居室空間となるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方、分かれる方には不要な介助は行わずに環境作りと見守りをおこなっている。		